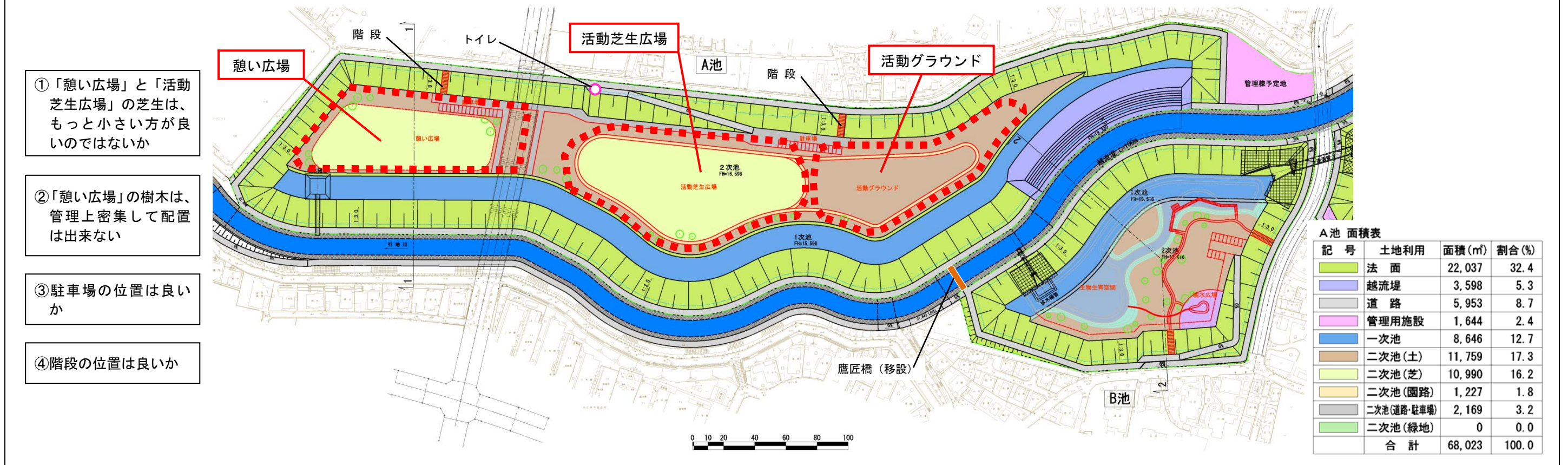


遊水地の上部利用にあたっての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・遊水地では、他の公園のような利便性の追求は出来ない。上部利用に制約がある。 ・池の中に倉庫や用具等を置いたり、屋根付き施設や日陰を作ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理費に影響が大きいのは越流時のゴミ清掃と芝生の管理。
--------------------	--	--

【A池】《上部利用》

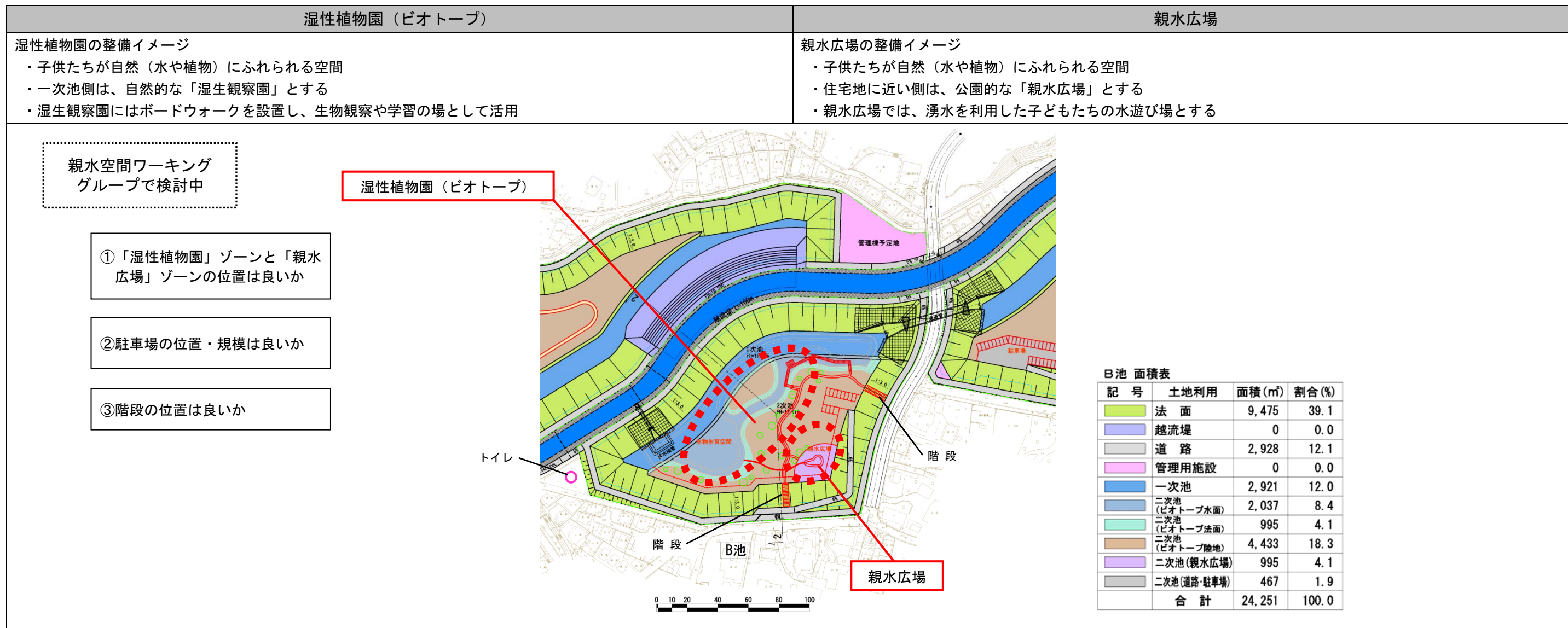
憩い広場	活動芝生広場	活動グラウンド
<p>憩い広場の整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越流堤から最も遠いため、比較的、樹木の多い広場とする ・子育て世代の利用を想定 	<p>活動芝生広場の整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペタンク、グラウンドゴルフ等（ニュースポーツ種目）の軽微な運動を行うことができる ・施設の整備は行わず、利用者が自由に使用できる広場 ・地元のイベントの際の活用も想定 	<p>活動グラウンドの整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越流堤に近いので、植栽を控えた土の広場 ・ペタンク、グラウンドゴルフ等の軽微な運動を行うことができる ・利用者が自由に使用できる広場とし、地元のイベントでの活用も想定



○A池：維持管理（上部利用部分）

		憩い広場	活動芝生広場	活動グラウンド
想定される管理主体		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 ・指定管理者 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 ・指定管理者 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 ・指定管理者 等
導入機能	【良い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心して遊べる場所 ・ベンチ等を設置し、子どもたちの遊びを見守れる設備を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なスポーツ種目の利用が可能 ・憩い広場、活動芝生広場、活動グラウンド合わせてのイベント開催も可能 	—
	【悪い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・芝面とすることで、転倒によるケガを軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・冠水した際、芝面は復旧に時間がかかるため閉鎖期間が長い 	—
維持管理	【良い点】	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・土面とすることで、維持管理費用が比較的安価
	【悪い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・地面を芝生とする場合、維持管理に費用と手間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツに必要なゴール等の保管場所は二次池内につくれない 	—
事例等		○大庭遊水地（多目的広場：天然芝と木が点在）	—	—

【B池】《上部利用》



○B池：維持管理（上部利用部分）

		湿性植物園（ビオトープ）	親水広場
想定される管理主体		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 ・指定管理者 等 ・地域団体等（自治会、NPO、自然観察団体、近隣大学の学生、ボランティア募集等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体 ・指定管理者 等
導入機能	【良い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に自然（水や植物）に触れられる空間の創出 ・地域住民・学校の生物観察や学習の場として活用 ・ボードウォークにより水際まで観察区域とすることが可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に自然（水）に触れられる空間の創出 ・子どもたちが水遊びをすることが出来る空間を提供
	【悪い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の発生を抑える対策が必要（水の循環等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次池内に手洗い場の設置は困難（水道水の利用は堤上になる）
維持管理	【良い点】	—	—
	【悪い点】	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を有する職員の確保が必要 ・対象とする植物・生物種の保全・管理が適時必要となる ・冠水時には、ボードウォークなど立体的な施設にゴミ等が付着する 	<ul style="list-style-type: none"> ・池の面積が小さいため、駐車場等他の施設との距離が近くなり、利用者の安全性の確保について配慮が必要 ・湧水等の水量及び水質の確保が必要
事例等		<ul style="list-style-type: none"> ○大庭遊水地（自然保全・自然ふれあい体験ゾーン） ○境川遊水地（自然創出ゾーン） ○裏門公園 	<ul style="list-style-type: none"> ○境川遊水地（噴水広場：立地特有の豊富な地下水を利用した自噴水）

【C池】《上部利用》



【D池】《上部利用》



○C池：維持管理（上部利用部分）

		多目的スポーツ広場
想定される管理主体		・自治体 ・指定管理者 等
導入機能	【良い点】	・少年サッカー・少年野球が行えるグラウンドの確保
	【悪い点】	・確保できる規模が限定される ・グラウンド脇に道具置場を設置できない ・日影の創出は困難
維持管理	【良い点】	・土面とすることで、維持管理費用が比較的安価
	【悪い点】	—
事例等		○大庭遊水地（球技広場） ○境川遊水地（多目的グラウンド）

○D池：維持管理イメージ（上部利用部分）

		散歩広場	活動広場
想定される管理主体		・自治体 ・指定管理者 等 ・地域団体等（自治会、NPO、近隣大学の学生、ボランティア募集等）	
導入機能		・高齢者が利用し易い広場 ・冠水した際、芝面や花壇は復旧に時間がかかる（花壇は全て植替えが必要）	
維持管理		—	・地面を芝とする場合、維持管理に費用と手間がかかる
事例等		—	—

○その他：維持管理（各池共通）

		トイレ	駐車場	法面	越流堤・1次池・連通管・排水樋管	管理用通路
想定される管理主体		・自治体 ・指定管理者 等	・自治体 ・指定管理者 等	・自治体 ・指定管理者 等	・自治体（河川管理者）	・自治体（河川管理者）
導入機能	【良い点】	・各池の利用者用に周囲堤上に設置	・池内に配置することによってアクセス性が向上	・草地のビオトープとすることで多自然空間を創出	—	・利用者通路として活用できる
	【悪い点】	・冠水しない位置に設置する必要がある、広場等からは離れた位置となる	・利用者導線と近い場合は安全性に配慮が必要	—	—	・幅員4mのため、自転車と歩行者分離は困難
維持管理	【良い点】	—	—	—	—	—
	【悪い点】	—	—	・定期的な除草が必要	—	・利用者のマナー徹底が必要